

勿凝学問 358

大切なことは、与野党が協力して国難に臨むのはどのルートが一番早いかなど？

党首討論をめぐる報道を観察して思うこと

2011年2月11日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

昨晚、HPにいろいろと書いていた。HPに似つかわしくなく長くなったので、HPをすっきりさせるために、こっちに移動。

今朝（2月10日）の社説を読んで、去年の[5月10日](#)にここに書いていたことを思い出したよ。彼らは、政権交代をあれだけ応援したんだから、ダメされたことを認めたくない気持ちはよくわかる（笑）。

- [党首討論一定例化し論戦の主舞台に](#) asahi.com

でっ、

総選挙でいったん政権を委ねたら、衆院議員の任期4年間はおおむね見守る。マニフェストの達成状況に対する評価は、次の総選挙で審判をください。それが、政権交代時代の基本的な政治の進め方ではないか。

そんなこと、誰が決めたんだ？

まあ、時と場合によるだろうね。「憲政史上最大の確信犯的な公約違反」([自民総裁代表質問](#))が行われた場合、そうした朝日の理屈がどこまで通じるのかね。しかもだ、これから彼らがやらなければならないことは、彼らが衆議院選挙のマニフェストで全否定したことというおまけつき。彼らが政権与党であるのは、衆議院選挙で多数を得たことに正統性があるんだしな。

僕が次の「勿凝学問 355」を書いたのも、1月27日の社説「谷垣質問—「解散が条件」理はあるか」（朝日）、「こんな国会論戦では困る」（日経）、「対決だけの政治は機能しない」（読売）、「「解散」とはまだ早すぎる」（毎日）を読んだのがきっかけだったんだけどね。

- 勿凝学問 355 [特例公債法が成立しないとどうなるのか？——解散となれば誰が困るんだ？というへそ曲がりの論](#)

次の文章や昨日の党首討論をみるに、谷垣さんは、解散総選挙の後、結果はどうあれ、一緒にやろうと言っているんだよな。

[自民総裁代表質問](#)

国家財政の一事を見るに、2年連続で借金が税収を上回るという異常な事態が続いています。我々政治が、このような国家的危機に対する認識を一にしたうえで国民の信を問えば、その後あらためて共にその危機を乗り越えていくことは可能であると考えます。

となれば、税制改革の実現の日まで、今のままとではどっちが早いかということになる。仮に、谷垣さんの代表質問の翌日1月27日に解散していれば、40日後の3月8日までには総選挙が行われ、そこから、与野党協議に入ることができているはず。谷垣さんの代表質問の翌日に、彼の論を否定した各紙論説委員は、3月8日をひとつのメルクマールとして覚えておいてもらおうかね。解散要求を支持しなかった彼らと、解散要求を支持した僕、果たして、どっちが早く、与野党を協力して国難に臨ませる論を展開していたのか——ポイントがそういうことだという視点からみれば、与謝野さんの入閣がどうい影響をもたらすかということへの評価も微妙となる。

でもまあ、僕は、[勿凝学問 355](#)に書いているように、次の方がベターだとは思う。これをやれば、その日からでも、税制改革に取りかかることができるし、予算関連法案の方もクリアーできる。

解散なしのぎりぎりのラインというのは、谷垣総理、菅副総理のもとでの税制改革の実行だろうな。政界が壊れ行き詰まった今、総選挙を行うとすれば懸念されるリスクからこの国を守るために、総理が与謝野さんに行ったとされる三顧の礼を谷垣さんにもあって良いと思う。そしてその方が、解散よりもベターだと思う。谷垣さんに人事権を禅譲して、与野党から人材を集めた救国内閣を作るくらいのことをしないと、あの詐欺選挙で壊された政界は機能しはじめないんじゃないのかい¹。

¹ 2012年1月26日には、次のように書く。

まあ、一年前、僕はぎりぎりのラインとして総理禅譲も視野に入れていたようだけど、今は、それもありえないな、僕の中でも。そして与謝野さんをはじめとした人たちが、あの党を以前のようなバカな野党には戻らないところまでひっぱってきたしな——甘いかもしれないが、それに、去年は次の総選挙まで2年半あったけど、今は1年半しかないしな。

ということで、どう考えても、菅さんがケンカ腰で答弁をする今の状態が続くのが最悪——各紙社説の論調とは、ぜんぜん違うんだよね。

我々国民が、現政権を選挙で選んだということを考えれば、実に残念なことなんだけど、次の言葉は、なんとも正しすぎる理屈に思えるんだよな。

自民総裁代表質問

この解散には、もう1つ重要な意味合いがあります。すなわち、小沢元代表が民主党にもたらした問題は「政治とカネ」に留まるものではありません。小沢元代表に作られた偽りのマニフェストを基盤とし、小沢元代表の選挙の手腕によって得られた砂上の楼閣が如き多数の議席を清算することなくして、「小沢斬り」は貫徹し得ません。一昨年の夏、民主党マニフェストを片手に国民に幻想を振り撒いた全員が胸に手を当てて、国民への嘘で政権を篡奪したことへのけじめをいったん付け、新たなスタートをきることこそが、わが国が健全な民主主義を取り戻す唯一の途と考えます。

最後に——どう考えてみても、菅さんの置かれた今の立場というのは、安倍さんや福田さんが政権を投げ出した時よりも、厳しい状況にあるわけだ。なのに、どうしてああいふケンカ腰の答弁ができるのか。。筆が走るという言葉があるけど、言葉が走りすぎ。歴史に対する反逆行為は言うまでもないが、最近では、ロシアへの許し難い暴挙発言などを聞くに及んで、その感性には、んっ？という感じである。

将来の評判を確実に落とすことなどお構いなしに、ガソリン値下げ隊とかを演じることのできる人たちというのは、僕ら常人とは根本的に何かが違うんだろな。

付録——昨年の5月10日にHPに書いていたこと。朝日新聞の社説を読んで思い出したのは、太字の部分だったりする。。

- ところで、昨日は、[みんなの歯科](#)というところに行ってきました、代表が僕の主治医さんであるだけあって、僕の文章がいろいろとメンバーに紹介されていて、おもしろいほどにみんな僕の考えを理解されていました。おなじ「みんなの〇」でも、「歯科」と「党」とでは大違いでした。
- 懇親会で笑った話
 - 其の壱
「あのですねえ、先生」「はい？」「内閣支持率が20%以上ありますけど、オレオレ詐欺の被害者は、騙されたことをなかなか認めないそうですよ」
 - 其の弐
「あのですねえ、先生」「はい？」「普天間5月末決着ってのは、まだ今年

とは言っていないそうですよ」

○ 其の参

「あのですねえ、先生」「はい?」「フクアンってのは、元に戻るの復案だったらしいですよ」

- おっ、おもしろすぎた” (^ _ ^ ;) ”

追記

2012年1月27日、つまり1月26日の谷垣さんの代表質問の翌日に書いた文章。

あのなあ。[毎日新聞の社説](#)にある、「谷垣氏は衆院選で信を問い直した後なら「ともに力を合わせて努力したい」とまで語った」ってのは、去年の昨日1月26日の代表質問でも谷垣さんは言っている話。続けて、「再三指摘してきたように、このまま総選挙に突入しても、民主党と自民党との違いは有権者にはよく分からない」と書いているけど、有権者に関しては知らないが、みなさんたち論説委員が、歴史をしっかりと把握していないから分からないだけ。今年の野党代表質問に対する社説を書く際に去年の代表質問を調べようともしない態度は、いただけないねえ。うちのゼミの学生なら、即刻、「降りろ」だな。

朝日も毎日も、野党代表質問の翌日の社説としては、去年より少しはましになっているけど、まあ、しっかりと歴史認識をもつという意味での教養の低さがめだつ文章だな。歴史を無視した判断は間違いやすいんだよ、去年の論のように。

とにかく、メディアってのは、間違えないという、よほどの自信がない限り（そのためには若い時からしっかりと勉強してもらわなければならないんだけど）、あんまり決め打ちしないことだ。プライドってのは大いにあるようだから、間違えても方向転換できなくなるからね。次は、年金の例だけど、どうぞ。

- 勿凝学問 168 [やはりメディアは政策提言なんかやめておいた方が世のため人のためだろう—— 一連の新聞各紙による年金改革提言を傍観しながら思うこと](#)

ちなみに、年金の話をしておけば、今は、旧来の「民主党の最低保障年金」〔昨日メディアにリークされていた案?〕の他に、一体改革成案・素案に書かれた最低保障年金というのがあるわけで、後者は、実は、「読売の最低保障年金」。だから、成案・素案の最低保障年金のだらしなさを批判できるのは朝日くらいで、あの制度の欠陥が明々白々になった今も読売は正面切った批判ができない状況に陥っている・・・でっ、この読売案ってのは、読売の記者が必ずしも考えたわけではない・・・、そのあたりの経緯を説明するためには、中央公論が読売の傘下にあって強い繋がりがあることや、読売が良かれ悪しかれ上意下達の意味決定システムを持つことまで触れなければならないわけだね。まあ、このあたり、いつか、生き証人シリーズとしてまとめておこうかね。

おっと、去年の野党代表質問での谷垣さんの言葉「国民の信を問えば、その後あらためて

共にその危機を乗り越えていくことは可能であると考えます」が書いてある文章をのせておかなくてはな。

- 勿凝学問 358 [大切なことは、与野党が協力して国難に臨むのはどのルートが一番早いかだろ？—党首討論をめぐる報道を観察して思うこと](#)